

ルイス・ヴァス・デ・カモンイス (Luís Vaz de Camões)

について



写真: Turismo de Lisboa

ルイス・デ・カモンイス（1524/25年～1580年）は、ポルトガル・ルネサンス文学の中心的人物であり、愛、勇気、アイデンティティの探求を象徴する国民的シンボルです。

ポルトガルの海洋発見と航海士たちの勇敢さを讃えた叙事詩「ルシアーズ」の作者であるカモンイスは、深い愛や人生の苦悩といった普遍的なテーマも叙情詩の中で探求しました。彼の人生は、意見の相違、冒険、挑戦に満ちていました。何度か追放され、マカオやインドへの軍事遠征にも参加しました。彼は難破船から生還し、「ルシアーズ」の原稿を救い出したと言われています。叙事詩に加えて、アマーリア・ロドリゲスが演奏した「コム・ケ・ヴォズ」「リアノール」「デュラ・メモリア」「エロス・メウス」などのファドスで不朽の名を残した抒情詩やソネットも制作しました。アナ・モウラが歌う「エンデイシャ」と同様に、ポルトガルの愛を特徴づける情熱と憂鬱を反映しています。

ルイス・デ・カモンイスはそのソネットの中で、愛の本質をその激しさのすべてにおいてとらえ、それを目に見えずに燃えさかる炎にたとえています。ポルトガルを探索すると、その風景の細部や人々のもてなしの心の中に、同じ愛が感じられます。あらゆる瞬間、あらゆる風景が、詩人の情熱を少しずつ呼び起こします。

1580年6月10日は、カモンイスが亡くなった日であり、現在では「ポルトガルの日」、「カモンイスの日」、「ポルトガル共同体の日」として祝われています。